
カンピオーネ！～智恵ある剣使いの魔王～

その輪廻の先にある物は・・・

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カンピオーネー〜智恵ある剣使いの魔王〜

【Nコード】

N0859N

【作者名】

その輪廻の先にある物は・・・

【あらすじ】

カンピオーネ それは、イタリア語で王者、または魔王の意味。そして、神を殺して力を奪った者の称号。その力に誰も逆らおうとはしない。否、逆らえない。これは、神様の失敗によって創作の世界へと行くことになる少年の物語である。

という夢を見た少年のお話です。 処女作なので、誤字脱字などがあると思いますがよろしく願います。 気づいたことや感想なども、沢山お待ちしております。

(旧タイトル カンピオーネー〜転生して神殺し〜)

プロローグ（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・っと申します。

今回が初投稿なのと、私こと作者は文才がありませんので
至らない点や誤字脱字があるかとは思いますが

それでは、プロローグのほうをどうぞ m (_ _) m

プロローグ

目が覚めると、見渡す限りに白い空間が広がっておりそこには爺さんが頭を下げた状態で座っていた……。

ん？だれだこいつ？まあいいや。とりあえず、ここはどこなんだ？と考えていると、不意に

「すまんかったすまんかったすまんかったすまんかったすまんかったすまんかったすまんかった。本当にすまんかった！」

「

と、某鳥の鳴く里の姉妹の姉のように無限ループに謝り続けてきた。ジジイがしてもきもいだけだ……。とりあえず、うざいし

「なんで誤ってるかは知らないがそろそろ頭あげろよ。」

「すまんかったすまんk……。って、許してくれるのか？」

「いや、意味わからないんだけど？？」

「だってワシ、おぬしを殺してしまったんじゃぞ？」

は？

「は？へ？ちょ、意味がまじ分かんないんだけど？

説明してもらってもいいか？」

「ん？ああ。分かった。」

「爺さん説明中」

直訳すると、俺は死んだらしい。

まあ、話によれば殺された、が正しいようだが。

なんでも、ほんとに人を巻き込まずに落ちるはずのだったビルの看板が

ちよつとしたミスで、人（俺）を巻き込んで落ちてしまったそうだと。そして、この爺さんは神様なのだそうだと。

・・・どう考えても、テンプレですよ？てか、死ぬときの感覚なかったなあ・・・とかいろいろ考えてると

「それで、説明もしたし許してもらえんじゃろ？」

「は？許すとは誰も言っていないぞ？バカなの？」

「え？許してくれるんじゃないの？！というか、神様をバカ呼ばわりすでない！それでも、創造神なんじゃぞ？！痛っ！痛い痛いっ！ごめんなさい！自分調子くれてました？！」

なんか、殺しておいて調子乗ってるから、勢いで蹴ってしまったなんか、ぞくぞくっ！ってくるものがあるなあ（笑）

「痛っ！やっ、やめてくれ！そんな黒い笑いを浮かべて蹴らんでくれ！し、死ぬ~~~~？！」

「ん？ああ、ごめんごめん。なんか、ぞくぞくっ！ってくるものがあつて、蹴り続けてしまった。」

「あ、悪魔！鬼！ドS！」

「神様なんだから死なないだろ？それに、創造神なんだろ？なおさら死なねえじゃねえか。つか、悪魔、鬼って・・・小学生か、貴様は？」

「死なないからといって痛感はあるんじゃない・・・そこは触れないでくれ・・・」

「ふうん。そんなもんか・・・分かったよ。」

とりあえず、こういうテンプレってやっぱ、元の世界に戻すことは

できないと思うから。異世界いくしかないか……

「なあ？爺さん、異世界って行くことができるか？」

「ん？ああ。できるぞ。元々、許してもらったら、異世界送るつもりじゃったしの」

「そうか。なら、能力とかももらえるんだよね？」

「ああ、1個だけん……！分かった！分かったから！何個でもいいから！ちゃんと叶えるから！だから、その黒い笑いと今にも殴りかかりそうな腕をおろしてくれ！！」

「本当だな？」

「本当じゃ！」

「分かった。しかたないから、おろしてやる。」

まあ、いつまでもここで時間をとっても仕方ないしな

「移動する世界とかも選べるのか？」

「ああ、創作の世界でも異世界でも、どこでもよいぞ。」

「ふむ。容姿は？」

「お主の望んだ通りにすることも可能じゃ。」

「なら、世界はカンピオーネ！で」

「ほう。カンピオーネ！とな……すまんが、情報がない。

お主の記憶の中から、その情報をもらってもよいか？」

「ん？別にかまわないぜ？その代わり、ほかの記憶なんてみるなよ？」

「わかっておるよ。……ふむふむ、なるほど。これはおもしろい世界じゃの」

「んで容姿は、黒髪金眼で、顔はかつこよくしてくれ。」

「あい。わかった。それで、能力のほうはどうするのじゃ？」

「そつだなあ……、じゃ……。」

- ・創造能力（基本的に何でも創造できる。生き物は例外）
- ・瞬間記憶能力（見たり聞いたりしたものを瞬間で覚えることができる。ON/OFFは自分で切り替え可能）
- ・空間能力（空間を操る。空間内は収納可能。空間内の時間は止まっている）
- ・武器の情報と使い方（ゼロ魔のガンダールヴそのもの）
- ・身体能力の向上

「こんなもんかな？」

「・・・チートじゃろ？」

「うるさい。気にするな。」

「まあ、別にきにはしないが・・・」

「あと、向こうでのお金と住む場所をお願いしてもいいか？それと、学校は、主人公と同じ学校に転入するということにしてもらってもいいか？」

「お金と住む場所は、能力で造れるじゃろうが・・・、まあよい。準備しておこう。無論、向こうに着いたら家の前におこう。」

おお！太っ腹な爺さんだぜ

「すまん。いろいろと頼んで・・・。」

「いいんじゃないよ。お主を殺してしまったのワシのせいじゃ。これくらいは、許容範囲内じゃよ。」

「そつか。・・・んじゃな。じいさん。」

「ああ。いい人生を歩むんじゃないぞ。」

「おう。」

そういつて、俺こと かみざわゆきと 神沢雪人は、その白い空間から消えた。

プロローグ（後書き）

どうでしたでしょうか？

前書きにも書きましたように

文才がないせいで、下手な文章になっているかもしれない

それと、本編のほうライトノベルが全然進んでおりませんので

更新のほうが少し不定期になるかもしれません

それでも、よろしければ今後ともよろしく願います

キャラ設定（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

今回は主人公のキャラ設定です

キャラ設定

（転生前）

- 【名前】：神沢雪人
【身長】：176cm
【誕生日】：6月23日
【年齢】：16歳（高校1年）
【容姿】：エアギアの一樹っぽい感じ 黒髪黒眼
【好きなこと】：読書 体を動かすこと
【嫌いなこと】：特になし
【長所】：男女隔てなく接することができる
【短所】：ドS（自覚はしているつもりらしい？）
【備考】

家は一般的な家庭。しかし、父親が本格的にはないが剣道や柔道などをやっていたため小さい頃からつき合わされていた。一般生徒の身体能力を中の下とすると、主人公は上の下くらい。

男女隔てなく接するため、それなりに友達が多い。容姿はいいのだが、性格のせいか恋人はできずにいた。しかし、遠くから見つめる女子は多かったとか多くなかったとか。ちなみに鈍感である。友達に隠してはいたが、オタク友達の影響か、隠れオタクだった。

・能力（強さの単位はE～EXで表します）

- 【体力】：B-
【魔力】：なし
【筋力】：B+
【耐久】：C+
【俊敏】：B+

【知力】 : A +
【幸運】 : E -
【宝具】 : なし
【危険察知】 : A

・スキル

なし

↳ 転生後

【名前】 : 神沢雪人
【身長】 : 183cm
【誕生日】 : 6月23日
【年齢】 : 16歳(高校1年)
【容姿】 : セフィロスの髪を黒くした感じ。 眼は金色 黒髪金眼
【好きなこと】 : 読書 体を動かすこと
【嫌いなこと】 : 特になし
【長所】 : 男女隔てなく接することができる
【短所】 : ドS(神様との一件で自覚できたらしい)
【備考】

神様のミスによって死亡し、カンピオーネーの世界に転生した。

・能力(強さの単位はE) EXで表します)

【体力】 : A +
【魔力】 : S S +

【筋力】 : S +
【耐久】 : A +
【俊敏】 : S
【知力】 : E X
【幸運】 : D -
【宝具】 : E X
【危険察知】 : A

・スキル

・創造能力

基本的に何でも創造できる。生き物は例外
神の武器でさえ創造可能なため【宝具】がE Xとなっている

・瞬間記憶能力

見たり聞いたりしたものを瞬間で覚えることができる。ON/OFF
Fは切り替え可能

そのため【知力】がE Xとなっている

・空間能力

空間を操る。空間内は収納可能。空間内の時間は止まっている。そのため生物でも鮮度を保てる。

某スキマ妖怪が使っているようなものである。

・武器の情報と使い方

ようは、ゼロ魔のガンダールヴ擬似である。

武器に触るだけで、その武器の情報と使用方法を得ることができる。

ガンダールヴと違うのは、身体能力が上がらない代わりにその武器による最適な動き方が分かること。

創造能力と一緒に使うことで、主戦力としている。

・神様（爺さん）

雪人をミスで殺してしまい、転生させた犯人である。

・能力

【体力】：E

【魔力】：

【筋力】：D

【耐久】：D +

【俊敏】：S

【知力】：E X

【幸運】：D -

【宝具】：E X

【危険察知】：B

キャラ設定（後書き）

うん、本当に主人公最強ですね・・・。

書いてる自分でも呆れてしまいますよ^w^；

正直、主人公の騎士をオリキャラか原作キャラにするかちよつと迷ってます

オリキャラにしちゃうと、設定があやふやになりそうですし

逆に原作キャラを騎士にしてみれば、原主の騎士がいなくなってしまうからねえ・・・

まあ、おいおい考えていこうと思います

見ていただいてる方にも、オリキャラにするべきか、原作キャラにするべきか

アンケート（という名の参考）をアドバイスしていただけると幸いです

それでは、またw

第1話 落下死??? (前書き)

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

昨日、友達と遊んでいたんですが、そのときにこんなことを言われました。

「お前、転生って信じる？」

え？これって・・・まさか?!・・・厨二病??

まあ、面白そうだから、「いや?あれって創作の世界だけだろ?」
って答えたら

「そうか・・・。」と少し、小さい声で言われてんですね・・・。
結構、気になる表情だったのですが、深くは問いただしませんでした・・・。

おっと、話が長くなりましたねwww

それでは、第1話 どうぞお楽しみください m (_ _) m

第1話 落下死???

ふう……正直に答えよう。現在、俺は落下中だ。

「てか、これいつまで落ち続けるんだ？それに、まだ空すらみえねえし……」

そう、あれから神様に転移させたら、俺は家の前だと思っていた。しかし、現実違った。周りは暗いが、落ちている方向 下は、白く光っている穴のようなところの空中に転移された。その結果、俺は重力によって、下に落ちているわけだ。

まあ、落ちているだけなら、その内着くだろうと思うさ。だが、もうかれこれ30分は落ち続けているんだ。

「ったく、いつまで落ち続けるんだよ……。じいさん、転移させたら家の前じゃなかったのかよ。」

と、愚痴っていると……

（それじゃ、おもしろくないじゃろwww）

と、あの爺さん（神様（笑））の声が聞こえてきたような気がした。

「まあいい……。そのうち着くだ……。おっ！空だ！やっと、出れたぜ！！な、長かった……」

どうやら、やっと穴を抜け出せたみたいだ。

と、安心しているのも、正直心を落ち着かせているためだ。
なぜかって？そりゃ、空にいるんだぜ？そして、落ちてるんだぜ？
地面に着いたときには、ぺちゃんこじゃね？www
と現実逃避をしている今も落ちてる。

「・・・やつぱり、無理！現実逃避しても、なんもかわんねえ！！
ぎゃあああああああああああああ！あのクソじじい！せめて、
穴抜けたら家の前にしろよおおおおお！！」

と言っている間も、どんどん地面との距離は近づいていつている・・・
・・・
あと、300・・・200・・・100・・・50・・・
・・・

「ぎゃあああああああああ！転生した瞬間、落下死なんていやだ
あああああ！あつ、そうだ！空間操れるじゃん！これで、家の前と
今の場所を繋げば・・・よし、いける！能力発動！《空間接続》」

能力を発動すると、落下先に空間の裂け目ができ、俺は裂け目の中
に入った。

「あ、あぶねえ・・・もうすこしで死ぬとこだったぜ・・・。つ
と、ここは空間内か。なんだ、そのまま繋げることはできないわけ
か・・・。よし、家の玄関前に出口作るか・・・。ん？待てよ・・・家
ってどこにあるんだ・・・？・・・。あ、そうか。落ち
て、着いた場所が家になるはずだったんだよな・・・ということとは、
さっきの落下先を確認できないかな・・・。」

そう思った瞬間、俺の目の前に電子的な画面ででてきた

「うわ！まじで出てきたよ。まさか出るとは思わなかった……。なるほど、これで設定できるわけか……。さっきの落下先を表示して……。到着場所を特定つと……。お！これか。よし、この玄関前に空間の裂け目を《製作》」

すると、俺の横に空間の裂け目ができていた。俺は、迷い無くその裂け目へと入って行った……。裂け目を抜けると、玄関のドアが見えた。どうやら、一瞬で着くようだ。

「おお！結構でかい家じゃん！こんなところに住んでいいのかよ。さすが神様、太っ腹だ。さて、家の前にずっといても仕方ないし、中に入るか。」

そう思い、扉を開けようとドアノブに手をかけた時に扉の間に手紙のような紙が挟まっているのが目についた。どうせ、あの爺さんからの手紙だろうと思い、紙をポケットにつっこんで、俺は家の中へと入っていった。

第1話 落下死???（後書き）

どうだったでしょうか？

楽しんでいただけたら、幸いです

それと、前書きのほうで話したことを踏まえて

この小説のアドバイスと感想のほうお待ちしております。

それでは、また次回お会いしましょう（＾w＾）ノシ

第2話 突然の来客?! (前書き)

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

台風が近づいているため、雨が降っているのと、今日はバイトがあるため少しだけ気分はブルーですが、がんばっていきましょう。

それでは、第2話どうぞ。

第2話 突然の来客?!!

「神沢雪人様ですね？」

俺の前に立っている美少女は、そう答えた……。

〈回想中〉

家に入った俺は、まず部屋を確認しようと階段を上り、二階に行った。

二階には部屋は6つあり、そのうち

4つが個人で使える部屋

1つが本棚で壁際が埋まっている部屋

1つが倉庫のような小部屋だった。

二階を確認した俺は一階を確認しようと階段を降りた。

一階には

リビング

トイレ

洗面所

応接室のような部屋

座敷

二階にもあったような倉庫のような小部屋があった。

一通り見た俺はリビングへ行き、椅子に座り込んだ。

「ホント、でかい家だよな。1人で住むにはもったいないくらいだ。……そういや、手紙があったんだ。読んでみるか……どうせ、あの爺さんからだとは思うけど……。」

手紙開き、俺は読み始めた。

『神沢雪人へ』

この手紙を読んでいるということは、無事に家に着いたようじゃな。最初の落下のやつじゃが、あれは直ぐに家に着くのも面白くないと思ひ、やったことじゃ。

お主のことじゃから、能力を使っただろうと思う。

能力の確認も出来て一石二鳥じゃったろ？

とりあえず、家はデカくしておいたぞ。友人なども沢山呼べるからいいじゃろ？

家具のじゃが、自分で創ったほうが、お主の好きにできると思ひ、二階の本棚とリビングのテーブルと椅子以外は置いてはあらん。

あと、最初の生活費は用意しておいた。あとは能力でも使って、補えばよからう。

学校のことは、希望通りにしておいたぞ。

それではな・・・良い人生を歩むことを祈っておるぞ。

創造神（爺さん）より』

案の定、あの爺さんからの手紙だったか・・・。最初の落下のやつ、面白くないからってやるなよ・・・。ミスったら死んでたぞ・・・。まあ、確かに能力の確認ができたからいいけど・・・。とりあえず、学校は護堂と同じのようだな。これで、少しは原作介入しやすいかな・・・。

「てか、金どこあんだ？一通り見回ったけど、そんなのなかったし．．．まさか、また爺さんミスったんじゃないだろうな．．．」

そんなことを愚痴っていると、『ピーンポーン』っとインターホンがなった。

「ん？爺さんかな？遊びに来るって手紙に書いてあったし．．．」

俺は、来客を迎えるため玄関へと赴いた。

「はゝい、今開けます。」

そう答えて、俺は玄関をあけた。

「やあ、爺さん。もう遊びにk．．．．．」

だが、予想は俺の垂直なんじゃないかってほど斜め上をいていた．．．

なぜだと思う？．．．それはな、『爺さん』ではなく、『美少女』が立っていたから．．．

その美少女は少しだけ神々（こうこう）しくて、道端を歩いたら、10人が10人は振り向くぐらい美人なのである。俺は少し呆けていると．．．

「神沢雪人様ですね？」

「．．．はあ。そうですが．．．どちら様ですか？？」

「あ、申し遅れました。私は創造神様より、あなたに仕えるよう申し付けられた、フェリス・アルラデスです。確か、創造神様が言うには、手紙で知らせてあるはずなんですが．．．」

「え？手紙？」

俺は、急いで手紙を開いた。
すると、さっきまではなかったはずの文字が手紙の一番下に書かれていた。

『P S 時々、遊びに来ると思うから（はあと）
それと生活費のほうは、お前と一緒に住むことになるワシの遣いの者があとから持っていくようにしておる。詳しいことはそやつに聞くがよい。（これは、遣いが来たときに現れるようにしておる。サプライズじゃwそれではのw）』

あんのクソ爺……。なにがサプライズだ！！心臓に悪いわ！

「と、とりあえず中へどうぞ。詳しい話は中で……。」

「あ、はい。分かりました。」

そうして、俺たちは詳しい話をするため家の中へ入っていった。

第2話 突然の来客?! (後書き)

どうでしたでしょうか？

ここで、1人目のヒロイン投下です。

このあとも、どんどんヒロインが増えるわけですが・・・。

まあ、その話をしてしまうと面白くなってしまいそうですねwww

アドバイスや感想をお待ちしております。

それでは、また次回お会いいたしましょう。(^ w ^) ノシ

第3話 存在の改め（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です
なんと！今日は2話連続投稿ですww

まあ、ほんとはブルーな感じだったんですけど

ちょっとだけ、いいことがあったので、第3話を書く気になりました
ということ、第3話どうぞ

第3話 存在の改め

俺たちは今、夕食を摂っている。

え？話をするんじゃないやなかったのかって？しましたがなにか？

別に、淡々と話すようなことがあったわけでもなかったし・・・
っちょ！分かった！話すからいますぐ、そのふりかぶっている包丁
やらを下げる！・・・ふう・・・んじゃ話すぞ。

～回想中～

家の中に入った俺たちはリビングに行き、テーブルに向き合ってた。
った。

「とりあえず、もう一度自己紹介でもしましょうか。俺は、神沢雪人。まあ、創造神の爺さんのミスで死んじまって、転生した者だ。よろしく。」

「私は、フェリス・アルラデスです。創造神様より、あなたに仕えるよう申し付けられた者です。よろしく願います。」

「爺さんから遣わされたってことは、あなたは天使か神様ってことかな？」

「はい、前者のほうです。まあ言い方を変えてしまえば、下級神ってことにもなりますけどね。」

「へえ」。天使と神様って違う存在だと思っていただけ・・・
「確かに存在意義は違い、仕える側と仕わされる側ですが、存在の核としてはどちらも神様であることは変わりありません。もっとも、『天使』としての下級神と『神』としての下級神では、力と権力の差は全然違います。」

「なるほど。なら、俺たちの解釈とはちょっと違うわけか・・・
それで、なんで君は俺に仕わされたわけ??」

「あ、はい。それは、あなたの身の回りのことと生活の助けをすること、あと学校の転入での裏口実のためですね。学校への転入の理由は、転校ということになっていきますので、親の存在が必要と判断されたのでしょうか。」

あ、そういうことか。爺さんも少しは頭働くのか。あれでも神様ということか。

「わかった。なら、これからよろしく頼むよ。俺もできる限りは手助けする。あと、君は何か能力的なものはもっているのかな？」

「はい、よろしく願います。はい、持っていますよ。」

「教えてもらっても良いかな？」

「はい。1つ目が、天使の加護を対象に与える能力、2つ目が『まつろわぬ神』の存在の察知、そして3つ目が治療魔法ですね。それと例外として、あなたには劣りますが創造能力です。」

「なるほどなるほど・・・まあ、とりあえずは、『まつろわぬ神』の察知を常にもらってもいいかな？まずは、イタリアのグリニツジの賢人議会に俺の存在を気づかせるために、権能を手に入れないと・・・。」

「はい、分かりました。察知次第報告させていただきます。それでは、ご主人様ご夕食にいたしましょうか。」

俺は、少しだけ苦笑いをして

「ははは、ご主人様か。雪人でいいよ。なんかそういうの慣れてないし・・・。」

「はい！雪人様。」

「様もいらぬのに・・・まあいいや。とりあえず、夕食の準備でもしようか。」

「はい」

とりあえずは問題なさそうだな。明日から、学校かあ。まあ、楽しければいいや！・・・てか、これって同棲とでもいうのかな・・・。
まっ、いつかw

第3話 存在の改め（後書き）

ふう。とりあえず第3話終了です。

ここで次回予告！！・・・はしませんwww

まあ、学校登校だけではないとだけでも言っておきましょうかwww

それでは、また次回www

閑話 創造神について（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

今回の投稿は、ちょっと創造神について作者が考えているものを書こうかなと思って投稿しました。

これから書く事は物語に影響を起こすことはほとんどないと思います。

ただ、頭の隅にでも置いて、物語をよんでくれたらなあ〜と考えてたりかんがえてなかったり・・・。

とりあえず、興味のある方はみてください。

それでは、どうぞ

追伸：携帯の方は、見ないほうがいいかもです・・・ごちゃごちゃになつてると報告がありました^^；

閑話 創造神について

「創造神について」

創造神とは別名として

そつぞつしめ

創造主

そつぶつしめ

造物主

そつせいしん

創世神

そつのかみ

造化の神

などと言われる事もある。

その存在は、創造神話あるいは宗教の教義で、その意志もしくは働きにより世界または宇宙あるいは生命や人間を創造したとされる神である。あるいはその創造を神格化した神のことを表している。

また、無から有を生み出した者と捉えられることも多い。

多神教には創造神を考えるもの、人格的創造神を考えないもの（世界は神の意志や働きによらず《自然に》できたとする）、世界が完成される過程で働いた（有から有を、あるいは無秩序から秩序を生み出した）創造神を考えるもの、生命あるいは人間を創造した神を考えるもの、また男女一対の神がその他の神や万物の「親」となったとするものなど、様々な考えがある。

だが、一番多く人が考え、そう思ってしまうものは、『創造神は他の神と異なる超越的な神』
ということだと思う。

確かに、単一神教では創造神を他の神と異なる超越的な神とする場合が多い。

ここで少し、各神教が考えている創造神のことを詳しく話していこうと思う。

まず、『一神教』

これは、アブラハムの宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）で、基本的に、神すなわち創造主が初めに存在し、世界は神の働きで無から造られたとされている。

さらに生命も人間も、他の物から生じたのではなく神の働きで造られたとされる（旧約聖書創世記に描かれた天地創造）。

キリスト教では、神は言葉ロゴスにより万物を創成し、「神の言葉」であるイエス・キリストも初めに存在した者とされる（ヨハネの福音書など）。

なおモルモン教では普通のキリスト教と違い、神を無から有を生み出した者とは捉えず、神は既にあつた宇宙を秩序を立てた者と考え

次に、『インド神教』（またの名をヒンドウ教）

ここでは、古いヴェーダ神話でヴィシュヴァカルマンが創造主とされていた。

しかし、後にこれは工匠神とされ、代わって宇宙の根本原理『ブラフマン』を神格化した『ブラフマー』が創造神とされ、維持神ヴィシュヌ、破壊神シヴァとともに最高神とされていた。

時代が下るとヴィシュヌとシヴァが重要視されブラフマーは地位が下がった。

次に、『神道教』

神道教では、天地開闢の初めに現れた天御中主神などの独神が造化三神と呼ばれ、創造神ともされる。しかし、具体的に何を行ったかは明記がなく、それらに続いて男女一对で現れ、国生み・神生みを行ったイザナギ・イザナミが事実上の創造神とされている。

次に、『ギリシア思想教』

ここでは、プラトンが造物主をデミウルゴス（世界を作る職人の意）と呼び、この段階では善悪は未分化だったとした。この考えはグノーシス主義にも受け継がれた。

次に、『一元論教』

一元論では、全ての事物が単一の存在に由来するという思想で、特にギリシア哲学におけるそれがよく知られ、汎神論とも親和性が高い。これらの思想は一神教の中にも見られるが、一方で宇宙自体が神の現れであり「創造」には意味がないとする思想にもつながる（例えばヴェーダーンタ思想）。

これ以上は、私でも分かってはいない。上記のことは、wikipedia情報を少々と、私が自力で読んだ著書や文献などを参考に書いたものなので、これが真実と言えるかは誰にもわからない。

次に、創造神の名を上げようと思う。これを書く理由は再度、創造神がいくらいるのかを思い出してほしいからだ。

よく知られている創造神
ていない創造神

あまり知られ

アトウム

アティウス・

ティラワ

クヌム

アモッテン

トート

オニャンコ

ポン

プタハ

元始天王（盤古）

ヴィシユヌ

タイオウ

アトル

コニラヤ

パチャカマツク

ビラコチャ

フナブ・クー

トリ

フラカン

ティアマト

トウタニヤムカ

ティラワ

カルウインチヨ

アイテール

イザナギ

イザナミ

カトンダ

カルンバ

カング

ケチャルコ

タアロア

ナレアウ

ヤハウエ

トナカテク

パリアカカ

ヤナムカ・

ワリヤリヨ・

天照大神は、日本の創造神とされているが、創造神ではない。太陽を神格化した神であり、皇室の祖神（皇祖神）の一柱とされる。

このように多くの創造神がいるため、すべての神を超越した神がどれなのかは分かってはいない。

だが、私は考える。

『本当の創造神には、名前など是在りはしない』ということをして……。

これは、決まっていたつもりはない。私は、それが真実なのだと考えている。

名を付けられた神……それは、人が崇高するために創られた存在

でしかないのである。

だからこそ私は、『すべての神々を超越、創造した本当の創造神に、名前などは在りはしない』と考えている。

これは、私個人としての意見である。皆がどう思い考えるかは自由なのだ。

ただ、私個人の意見を少しでも覚えておいてくれると幸いである。

閑話 創造神について（後書き）

どうでしたでしょうか？

私が言うことはなにもありません。

読者がどう考えようと、それは個人の考えでしかありません。

話が長かったため疲れた方もいるでしょう・・・。

または、途中でだるくなったり、読んでいない方もいらっしゃるかもしれませんが

何度も言ってしまうのも変ではありますが、本当にこれだけは覚えておいてもらえると幸いです。

『すべての神々を超越、創造した本当の創造神に、名前などは在りはない』

それでは、皆様

また次回お会いいたしましょう。（＾w＾）ノシ

第4話 人生は予想外なことだらけwww（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

正直、バイト忙しいので夜中に書いて予約投稿です。

それでは、どうぞ

第4話 人生は予想外なことだらけwww

・・・今から、あのネタを言ってしまいそうだ・・・。

「絶望した！予想とは違うことが起きてしまうこの世に絶望した！・・・鬱だ死のう・・・。」

俺、某人生に絶望している先生の決め言葉言ってしまうほど絶望している！！！！

なぜかって？・・・それはな・・・まだ、護堂が高校生になっていなかったからだああああ！！！！

そりゃあ、護堂より早くカンピオーネになれるかもしれないけどさ！！護堂の居ない高校生活1年目なんて過ごせるわけがない！！！！

「ああ、絶望した！大いに絶望した（ry」

はあ・・・。

（3時間前）

俺は、私立城南学院高等部に転校という形で転入した。

同じクラスには、護堂はいなかったため違うクラスだと思い、転入挨拶（自己紹介）のあと、クラスメートに質問攻めに遭うも、なんとか乗り切り俺は護堂を探すため、他のクラスを見に行った。そう、ここまではよかった。

完璧とも言えた。

だが、俺の予想は、はるか斜め上をいく結果となった。

・・・そう、護堂がまだ高校生になっていなかった！！！！

まだ中学3年だったのだ！原作開始1年前の世界に来てしまっ

たのだ!!!

〽回想終了〽

「絶望した！予想とは違うことが起きてしまうこの世に絶望した！
・・鬱だ死のう・・。」

はあ・・・まあ嘆いても仕方ない。こうなったら、原作崩壊でも
なんでもしてやる！！
こんな、世界知ったことか！！

だが、その言葉が本当になるということを、俺はまだ知るよしもな
かった・・・。

・
・
・
・
・

放課後!!!

え？早いつて？きにすんなw
とりあえず、帰宅するとうかな・・。
〽少年帰宅〽

「ただいまあ。」

「お帰りなさい、雪人様。さっそくですが、お風呂にしますか？ご
飯にしますか？それとも」
「

ま、まさか！このフリーズは！

「『まつろわぬ神』にしますか？」

・・・わあおゝ。そりゃすごい！！！YO SO U G A I

「・・・ねえ！俺の甘い期待はなんだったのさ！返せ！今すぐ俺の

純情を!!」

「なにをバカなこと言ってるのですか？それで、どれをさきにするんですか？」

「風呂、夕食、まつろわぬ神でお願い。」

「分かりました。」

〔風呂& a m p・夕食中〕

・

〔終了〕

「それで、『まつろわぬ神』がどうかしたのか？」

「はい。とうとう察知に成功しました。正直言えば、相手から出てきたようなものなんですけど。」

わああ。まさか、本当に原作崩壊させて7人目になれそうだよ！

！！

あれか、運命のいたずらってか？？？w w

「そうか……。場所は？」

「イタリアです。」

「へえ。イタリアかあ……。ピンポイントでグリニッジの賢人議会に発見してもらえそうだし……。これは神のいたずら、またの名を爺さんのいたずらってか？w」

「ふふふ。さあどうなのでしょうね？とりあえず、察知は常に行っておきます。ご出発はいつに？」

「そうだな……。転入早々、明日から休みだし、明日出発しようと思う。どうせ能力ですぐいけるしね。」

「分かりました。それでは、明日の準備をしておきます。」

「ああ。」

どうやら、俺の原作崩壊予定は早くも達成してしまいそうだな、
こりゃw

とりあえず、明日に備えて寝るか・・・。

第4話 人生は予想外なことだらけwww（後書き）

どうだったでしょうか？

今までより、すこし短かったかな???

次回、ようやくの神との戦いですww

いつになったら、始まるんだ？と思っていた方もいらっしゃると思いますが

今回の更新は確実にまつろわぬ神戦です

それでは、次回またお会いいたしましょうww

第5話 意外な『あいつ』との対決!! 前編(前書き)

その輪廻の先にある物は・・・です

ちよつと、話がなくなりそうなので、前編と後編にさせていただきます。

それでは、どうぞ!!

第5話 意外な『あいつ』との対決！！ 前編

「ふおおおお、ひさしいな。」

俺の目の前には、あいつがいた。

「まさか！お前がつ！」

「おどろいたじゃろ？」

そう、『彼』がいたのだ。

『まつろわぬ神』として・

・
・
・

く回想中く

俺は、朝早くに目が覚めてしまった。

どうやら、ついに神と戦えることに心が緊張、期待、歓喜などいろいろな感情がわきあがっているからだと思う。
正直、昨日の夜もなかなか寝つけずにいた。

「ふわあゝあゝあ・・・。まだ、眠いわ・・・。」

どうやら、体のほうはまだ眠いようだ。

「あら？雪人様？今日はお早いですね？まだ6時ですよ？」

「ん？ああ。フェリスか、おはよう。まだそんなに早かったのか・・・。なんか、寝つけなくてね。」

「おはようございます。そうなんですか・・・、コーヒーでもいいか

がですか？」

「じゃあ、もらうとするかな。」

俺より、先に起きてるフェリスって何時に起きてるんだろ？

「どうぞ。」

「ああ、ありがとう。とりあえず朝食を摂ったら行くつもりだから、準備できてる？」

「はい、問題ありません。」

「なら、さっそくだけど朝食つくってもらってもいいかな？」

「はい。」

俺は今、オタリア郊外の森の中にいる。

ん？飛ばしすぎだって？気にするな、時間の都合上だ！！（メタ

発言

現在、『まつろわぬ神』の居る場所へと向かっている。徒歩で。

正直、のんびりと徒歩で向かって大丈夫なのか？って気がするが、そうでもなかった。

だいたい、まつろわぬ神が出たのも昨日だ。

フェリスが言うには、下界、または自らの封印を解いて現れるのでは、全然違うらしい。

下界して姿を現すときには、どうしても神は力を最初に失ってしまふ。そのため、すぐに暴れだすことはない。これは、どの神でも一

緒なのだそうだ。

だが、封印されていた場合は違う。封印されている間も神は力を貯めるため、封印さえ壊すことができれば、あとは暴れ放題である。

そう、今回の出現は下界らしい。

そのため、こんなのにのんびりと向かっているわけである。

そういえば、今回の『まつろわぬ神』はだれなのだろうか？ そう思った俺は、フェリスに聞いた。

「フェリス、俺が戦う『まつろわぬ神』ってだれなの？」

「・・・ご期待に背くことはあまりに申し訳ないのですが、私にはそこまでは分かりません。あくまで、存在があらわれたという気配しか察知できないもので・・・。」

まあ、どの能力にも欠点は存在するものだ。

「あ、いや別にいいんだ。気にしないで。ただ、もし知っていたなら今のうちに対策練ることができると思ってさ。まあ、会えば分かるし問題ないさ。いちお能力はもらってるし。」

「本当に申し訳ございません・・・。あら？ どうやら着いたようです。」

「ん？ そうか。というか、いつの間にか、ずいぶんきてたんだな。」

気づいたときには、だいぶ奥へと来ていたようだ。

「さてと、『まつろわぬ神』はいつたいどk「雪人様、どうやら相手から来てくれたようですよ？」・・・まじかよ。」

まあ、相手から来てくれるなら、見つける手間が省けたが・・・。

「ふおおおお、ひさしいな。」

俺の目の前に、あいつが現れた。

「っ！まさか！お前がつ！」

「おどろいたじゃろ？」

そう、『彼』がいたのだ。

・・・

『まつろわぬ神』として・・・

「ああ、驚いたよ

爺さん。」

俺を殺して、転生させた張本人、『創造神の爺さん』が・・・

後編に続く！！！！！！

第5話 意外な『あいつ』との対決!! 前編(後書き)

いかがでしたでしょうか？

とうとう神との遭遇！そして、急展開！

雪人はどうなるのか!!!

次回、後編です

終話 意外な『あいつ』との対決！！ 後編（前書き）

ご期待されていた後編です。

なぜ、終話になっているかは、後編の最後とあとがきにて……
それでは、どうぞ。

終話 意外な『あいつ』との対決！！ 後編

「爺さん、なぜあんたが『まつろわぬ神』として現れた？創造神なんだろ？」

そう、彼は創造神。万物を創造し、この世界を作ったのも彼のはずだ・・・

「・・・お主。大事なことを忘れてしまっておるよ。『まつろわぬ神』とは、本来は犯してはならぬ罪を作ってしまった神のことなのじゃよ。」

本来、神には役職 仕事がある。

創造神ならば、なにかを創ること
守護神ならば、なにかを護ること
破壊神ならば、なにかを壊すこと
豊穡神ならば、なにかを豊かにすること
死神ならば、だれかの死を処理すること

このように、神々には決まった仕事がある。しかし、その仕事以外のことをした、または何かしらの罪を犯してしまった神々の総称を『まつろわぬ神』という。

「いや、それは分かるが・・・、爺さんなにをした？」

「忘れたか？お主を転生させたのワシじゃぞ？」

「確かそうだが・・・、あんたは創造神だ。なにが罪に問われる

ことになるんだ？」

だから分らないのだ。創造神だからこそ転生というものができ
はす。転生も立派な命を創ることなのだから……

「ああ、たしかにワシは創造神だ。命を創ることもわしの仕事じゃ。
だがそれは、あくまで『新しい』命なのじゃよ。……だが、ワシ
は輪廻を外れた魂のお前を転生させたのじゃ。これは、ワシの管轄
する仕事ではない。死神のすることだ。任された仕事以外のことを
してしまった。だからワシは『まつろわぬ神』になってしまったん
じゃよ……。話がなくなってしまうたの。雪人、ワシは今から
お前と戦わなければならん。全力でかかってくるがよい!!」

「っ！……分かったよ！爺さんを倒して、その力貰い受ける！
」

そして、彼

神沢雪人は、創造神を倒した。

を、ある少年は見ていた……

という夢

そして、本当の物語の幕開けはここから始まる……

終話 意外な『あいつ』との対決！！ 後編（後書き）

いかがでしたでしょうか？

そう、これは『ある少年』の見ていた夢

あくまで夢物語

本当の物語は、ここから始まる！！！！

次回！ 新話 プロローグ ……！！

お楽しみにwwww

小説名とタグが変更されますので、ご注意ください。

真話 プロローグ（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

とうとう、真のお話＝真話の始まりです。

それでは、どうぞ！！

真話 プロローグ

アイスランド郊外の、ある満月の光が降り注ぐ大地

その大地は、美しい雪景色で有名な場所であった。

だがそこは、戦いの被害を受け荒れ果ててしまい、見るも無残な状態となっていた。

そんな大地に、2つの『存在』があつた。

一方は、有翼光輪を背に持ち一振りの剣を杖代わりにして立っている、ある『少年』

また一方は、一振りの剣を自身の横に突き刺し倒れている、ある『神』

そう、ここでは、『少年』と『神』が戦っていたのだ。

「……どうやら、俺の勝ちのようだな。」

「……ああ、そのようだな。こちらは、体がピクリとも動かんよ。」

少年は、神に勝った。

「はははっ、あれだけ激しい戦いをしたんだ。これ以上動いてもら
っちゃこまる。」

少年は苦笑いをしながら、そう言う

「たしかにな。だが、それはお主も変わらんぞ？」

呆れたような顔をして、神はそう答えた。

「まあ、そうだけど・・・。」

そう言っ、少年は苦笑いを続けるしかなかった。

「・・・最後になっちゃったが、お主・・・名は？」

「ホント、いまさらだな。・・・俺の名は、もりさきしんや森咲神夜」

少年から名を聞いた神は、最後の力を振り絞って立ち上がり、

「いい名だ。・・・では、『カンビオーネ神殺し』森咲神夜よ！我が力、そして
愛装をお前に託す！この我から力を奪ったのだ。この先、敗北など
一切認めん！・・・ではな。」

そう宣言した神は、段々と薄くなっていき最後には消えてしまった。

神が消えた後、いつの間にか神夜の有翼光輪と一振りの剣は消えて
おり

すでに体が限界だったのか、地面に突っ伏し後

「ははは・・・ふう、あそこまで言われちまうとは。ちっ、こり
ややべえな、救援呼ぶか・・・。」

と失笑しながら、そうつぶやき、救援用の発信機のスイッチを入れ
た後、神夜は眠りについた。

そう、この時に『あの夢』を見たのだっ
た……。

神夜が、救援用の発信機のスイッチを入れてから、十数分後
1機のヘリが少年の近くに降り立ち、中から美少年と美少女が出て
きて、神夜に近づいた。

「シンヤ様！お迎えに参りまし・・・た？・・・シ、シンヤ様？！どど
ど、どうしよう！？キーリ！シンヤ様が、死んでる！！」

キーリと呼ばれた美少年は、神夜に近づき様子を伺うと

「落ち着いて、キーア。シンヤ様は寝てしまってるだけだよ。」

キーアと呼ばれた美少女は、キーリの言葉を聞いた後

「へ？・・・なんだ。寝てるだけなのね・・・びっくりさせない
でよ、まったく。」

と、一瞬呆けながらも落ち着きを取り戻した。

「さてと、シンヤ様を連れて屋敷に戻ろうか。あ、ヘリまでは僕が運ぶからね。」

「うん、そうだね。分かった。それじゃ、私は処理班を要請しておくね。」

そう言っで、キーリは神夜をおぶり、キーアはその隣で携帯を掛けながらヘリに戻った。

3人がヘリに乗り込むと、ヘリは飛び上がり飛び去っていった・・・。

ヘリが飛び去った数十分後に処理班がその地に集まり、神夜と神との戦いの痕を処理し始めた。

真話 プロローグ（後書き）

どうでしたでしょうか？

とうとう、真の物語の始まりです。

これから、神夜はどうなっていくのか・・・今回戦った神はだれだったのか？

そして、神夜の持っていた権能はなんだったのか！！（これは、次のキャラ設定で書きます。）

それでは、また次回お会いいたしましょう！！（ハハハ）ノシ

感想やアドバイスお待ちしております。

真話 キャラ設定（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

ちょっと、更新が遅くなってしまいました。

それでは、どうぞ

真話 キャラ設定

【名前】：森咲神夜

【身長】：184cm

【誕生日】：8月14日

【年齢】：16歳（高校1年）

【容姿】：エムゼロの九澄大賀 似

【好きなこと】：読書 体を動かすこと

【嫌いなこと】：特になし

【長所】：男女隔てなく接することができる

【短所】：特になし

【備考】

家は元武家（現在は道場を開いてる）。幼い時から、祖父と父親に剣術や体術などを一通りやらされた。その身体能力の高さからか時々、学校の部活から助っ人の要請がくるともしばしば・・・それなりに友達が多い。特に護堂とは仲がいい。お互い、カンピオ―ネであることは現在は知らない。

中学3年の夏休みにインドへ海外旅行に行ったときに、まつろわぬ神と戦い、カンピオ―ネとなる。

その後、高校1年の時に、アイスランドでまつろわぬ神と戦い、2つ目の権能を剥奪する。

・能力（強さの単位はE→EXで表します）

【体力】：B -

【魔力】：A

【筋力】：A

【耐久】：A +
【俊敏】：B +
【知力】：B +
【幸運】：C
【危険察知】：D

権能

最終的にいくつもの権能を手に入れることになる・・・？
現在は、2つ

・アフラ・マズダー：『智恵ある神』

ゾロアスター教の善と悪とを峻別する正義と法の最高神、アフラ・マズダーから剥奪した権能。

これを使うと、背中に有翼光輪が現れ、その姿は王者そのもの。飛行も可能。

剣を出すこと可能。この剣は『善なるものと悪しきものを分離する剣』とも言われている。

自身に害のない善なるものには癒しを与え、自身に害のある悪しきものには裁き審判を与える。

・?????????：『勝利の炎の魔剣』

（これについての詳細は、物語が進んでから）

+++++

【名前】：キア・アルリス

【身長】：167cm

【誕生日】：11月26日

【年齢】：16歳（高校1年）

【容姿】：エリカを少し幼くしたような感じ

【好きなこと】：料理

【嫌いなこと】：特になし

【備考】

第1ヒロイン。美少女。イタリアのブランデッリ家と並ぶ名門アルリス家の双子の妹で、神夜の騎士の一人。

魔術結社《赤銅黒十字》に所属し、エリカとは仲がいい。『大騎士』の称号を持つが、『大騎士』の称号を持っている者の中での実力は、下位のほう。

基本的に、勘違いの多い天然少女だが、戦闘や話合いなどの真剣な場面では、豹変する。戦闘では呪術などを使い、サポートにまわる。

インドで神夜の神殺しに立ち会うことになる。

・能力（強さの単位はE〜EXで表します）

【体力】：C+

【魔力】：A-

【筋力】：C+

【耐久】：B-

【俊敏】：C+

【知力】：B

【幸運】：B
【危険察知】：D

+++++

【名前】：キリー・アルリス
【身長】：169cm
【誕生日】：11月26日
【年齢】：16歳（高校1年）
【容姿】：ネギまのネギを金髪金眼にした感じ。
【好きなこと】：読書
【嫌いなこと】：特になし
【備考】

美少年。イタリアのブランデッリ家と並ぶ名門アルリス家の双子の兄で、次期当主。神夜の騎士の一人。

魔術結社《赤銅黒十字》に所属する。《青銅黒十字》に知人がいるため、諜報役としても活躍。

『大騎士』の称号を持つ。実力は、エリカとほぼ互角に渡り合える。頭の回転が良かったため、神夜の参謀役でもある。妹に悩まされることもしばしば・・・？

戦闘では、攻撃魔術と剣術を織り交ぜた、近・中距離を中心に攻撃にもサポートにもまわれる万能型。

インドで神夜の神殺しに立ち会うことになる。

・能力（強さの単位はE、EXで表します）

【体力】：B-

【魔力】：A+

【筋力】：B-

【耐久】：B

【俊敏】：C+

【知力】：A

【幸運】：C-

【危険察知】：C

真話 キャラ設定（後書き）

気になる点など、お待ちしております。

それでは、また次回w w

真・第1話（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です

最近、更新速度が遅くなってしまいすいません。

それでは、真・第1話どうぞ!!

真・第1話

目が覚めると、知っている天井が見えた。
どうやら、アルリース家にいるらしい。

「つつつ．．．」

まだ痛い体に鞭を打ち、起き上がった。

（ここにくるのも、久しぶりだなあ．．．。）

そんな思いに耽っていると．．．

「カズヤ様、お昼お持ちいたしました、ってもう体のほうは大丈夫なんですか？」

部屋の扉の向こうから、お粥と思われる鍋を持ったキーアが入ってきた。

「ん？あ、キーアか。いや、まだ好調とは言いがたいけど、それなりに大丈夫だよ。」

「そうですか、よかったです。あ、お粥食べます？」

「うん、いただくとするよ。」

アルリース家．．．それは、魔術の名門ブランデッリ家と並ぶ有力家である。

イタリアにある、魔術結社《赤銅黒十字》にも発言権を持ち、その力は計り知れない。

現在の当主は、キーアとキーリの母

エリネ・アルリー

スである。

父親のターン・アルリースは、病で早くに死んでしまったらしい。父親が死に、次の当主を誰にするかとなると、本来は長男が受け継ぐはずだった。

しかし、その頃はまだキーリは2歳だったために、ターンの妻、エリネが受け継ぐこととなった。

閑話休題

お昼を食べ終わると、キーアは鍋を持って一言挨拶を言うと、すぐに出て行った。

数秒後に、『ガチャーン』という音が聞こえたが、まあ気にしないことにしよう。

キーアが出て行った後、少しすると・・・

「まったくキーアは・・・あ、失礼します。シンヤ様、お体のほうは大丈夫ですか？」

妹の失敗に愚痴を吐きつつ、キーリが入ってきた。

「ああ、大丈夫だよ。まあまだ、好調とは言いがたいけどね。」

と苦笑いを浮かべながら、そう返した。

「そうですか。でも、無事でよかったです。」

「ああ、そうだな。」

「それでは、本題に入ります。まずは2つ目の権能の剥奪おめでとうございます。これに伴い、シンヤ様の名声も上がったようです。」

どの魔術結社でも、今後どのような対応をとるか検討中のらしいです。少なからず、《愛人》をシンヤ様に送り込もうとしている所もあるようです。現在は、まつろわぬ神も出現しておらず、神に関する《神具》も新たに発見されていないため、今回の戦いの傷を癒すには丁度良いかと思われます。報告は以上です。なにか質問などはありませんでしょうか？」

「いや特にないけど、今は日本時間的に何曜日なのかな？」

「えっと……日曜日ですね。あと8時間ほどで月曜日になりますが……。あ、学校ですか？どうされますか？急いで日本に戻られますか？今からなら、日本時間の月曜日の午前1時ぐらいには着きますけど。」

「うん、そうしてくれるとありがたい。欠席するのもなんか嫌だしね。」

「分かりました。すぐに、手配いたします。」

そついつて、キーリは出て行った。

数十分後、キーリが準備ができたと戻ってきたので、エリネさんに一言挨拶とお礼を言った後、空港へと向かった。

空港に着くと手続きを早々に終わらせ、アルリース家の所持する自家用ジェット機で日本へと帰国した。

日本に着くと、時間は丁度午前1時だった。

荷物を取ってゲートをくぐり、早々に家に帰ろうと空港の出口に向かっていている時だった……。

そう、誰もが予想もしていないようなことが起きた。

「神夜さん、お帰りなさい。」

いた。

そう、出口の近くに『般若』が

正確には『万里谷^{まじや} 祐理』という名の般若が

真・第1話（後書き）

どうだったでしょうか？

ここで、原作キャラ、祐理の登場です。
いちお、ヒロイン候補です。

感想やアドバイスなどお待ちしております。

それでは、また次回をお楽しみにwww

3万PV&5000ユーク達成!!企画 番外編

作者「どうも、その輪廻の先にある物は……です。」

雪人「この野郎！よくも、俺を夢の中の人物しやがったな！」

神夜「落ち着けよ……。」

フェリス「そうですよ・・・と言いたい所なんですけど、私も出れないなんて許せません!」

アルリース兄妹「まあまあ……。」

雪人「ちつ。．．．それで、なんで全員集合してんだ？」

4人「そういえば、そうだな（そうですね）」

作者「おお、そうだった！聞いて驚け！なとな！」

5人
うん
うん

作「3万PV&5000ユニット達成なんだぜー!!!」

[illegible]

神「本当なのかつ？！」

作「嘘ついてどうするよ……。」

フ「まさか、こんな作者の作品が……。」

ア兄妹「そうそう、こんな文才皆無な大馬鹿作者が……。」

雪「俺を消しちゃう様な、クソ作者が……。」

作「・・・若干1名、私情挟んだやつが居るけど、確かに俺は文才皆無なのは否定できん・・・。」

5人 □ そうそう。 □

「話が逸れてます。3万PV&5000ユーニーク達成はうれしいのですが、なんで私達集められたんですか？」

作「あ、そうだったそうだった……。あまりのうれしさに忘れてたよ……。」「

「キーア、それで、理由はなんなのぉ？」

作「ん？ああ。それでな、記念企画に番外編でもやろうかと思っ

て

雪「番外編ねえ……。って、まさか！俺たちが再登場できるか

？！」

作「そうそう、そういうこと」

雪「おっしやあああああああああああああああああああ」

フ「それで、具体的には？」

作者「そこは、これから先の番外編でwww」

5人「ちょwww」

作「それでは、番外編どうぞ！！！！！」

！！！！

～番外編　あの夢をもう一度！！

「雪人、ワシは今からお前と戦わなければならん。全力でかかってくるがよい！！」

爺さんは、真剣な顔でそう言った。

「っ！……分かったよ！爺さんを倒して、その力貰い受ける！」

だから、俺は答える。爺さんの決意を壊さないために！！

「《創造》、現れる！約束された勝利の剣！」
エクスカリバー

俺は、右手にエクスカリバーを創造し、爺さんに突っ込んだ。

「ふむ、宝具か。なら、ワシもじゃ！《創造》、エツケザックス！」

そして、爺さんの手に、飾り気のない剣が創造された。

「無駄だ！『エクス（約束された）

カリバー』っ！！（勝利の剣）『」

おれは、勝利の一撃を放った……しかし

「ふつ、無駄なのはお主じゃ。」

放ったエクスカリバーの斬撃波が爺さんに当たる手前で、持っていた剣を前に持っていていき……

『ズガアアア——————ン！！！！！！』

さすがに、あれを食らったら無事ではないだろうと思い、気を抜いていると……

「ふおっふおっふお、すぐに気を抜くとは関心せんし、愚かじゃの。」

「

砂煙が晴れると……そこには、無傷の爺さんが立っていた。

「?!馬鹿な！エクスカリバーの斬撃波だぞっ！無傷でいられるはずが――!?!」

「ふおっふおっふお。お主、忘れておらぬか？エツケザックスの別名を。」

「……っ!! 無傷の剣 か!!!」

エツケザックス

その別名は、『無傷の剣』

北欧神話に登場する剣で、本来は架空の剣とされている。

エツケザックスは、北欧に住む小人たちが作ったもので、最初はその無名の剣だった。

その後、巨人エツケに手渡し、使用していたために『エツケザックス』と名が着いた。

エツケがベルン王ディートリヒとの戦いで敗れたためにディートリヒがエツケザックスを奪った。

それからはディートリヒが使用するようになった武器である。

しかし、それから数々の者に手渡っていくが、その剣は作った当時から刃こぼれが一度もなく、そして1つも傷がつくことはなかった。

だからこそ『無傷の剣』と言われるようになっていった。

これが、エツケザックスの生い立ちである。

「ちっ、そんな厄介なもんあるの忘れてたぜ!!」

「では、今度は此方から行くぞ!……堕ちろ!《てんらい天雷》!」

「なっ！《創造

」

『ピカッ！

』

音と表すのも、怪しいような音を上げ落雷が落ちてきた。

光が晴れる

「・・・耐えるか、さすがじゃのお。しかし熾^{ロー・アイアス}天覆う七つの円環とはの・・・。」

「ゴホゴホッ、かはっ！・・・くっ！」

咄嗟にロー・アイアスを創造し防いだものの、7つすべての光羽はすべて消え、雪人も右手から血を流し、口からは吐血した。

「さすがに、無傷ではないか・・・。諦めたらどうじゃ？」

「・・・そんな・・・ことで・・・きる・・・か！そ、《創造》アスクレピオスの杖、《癒せ》。」

「ほう、まだそんな気力があるか。」

アスクレピオスの杖

ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスの持っていたヘビの巻きついた杖で、どんな病、傷であっても、一瞬で治してしまう。

医療・医術の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークでもある。

欧米では、医の象徴として世界保健機関、米国医師会等のマークにも使われており、日本の陸上自衛隊でも衛生科職種[（]の職種き章[）]（徽

章）に用いられている。

「まさか、天災まで使いやがるとは・・・危なすぎんぞ!？」

「ふおっふおっふお。なら、これはどうじゃ?・・・堕ちろ！」

「

（ちっ! またか!）

「

『無限の神雷』!」

「ちよっ?!」

幾多の神の雷が、堕ちる堕ちる堕ちる堕ちる堕ちる堕ちる堕ちる
ちる

そして彼は、避ける避ける避ける避ける避ける避ける避ける
避ける

堕ちる避ける堕ちる避ける堕ちる避ける堕ちる避ける堕ちる避ける
避ける

の状況が続いていた。

（くそっ!これを止めなきゃ、なんもできねえ!どうやって・・・
・）

「無駄じゃ。神雷は堕ち続ける。もう、諦めるのじゃ・・・。」

（なにか・・・なにか手は・・・！！！！そうだ！！あれが、あるじゃねえか！・・・だがどうやって気を逸らすか・・・。）

避けている間もどうやらうかと悩んでいると、不意に頭の中に声が聞こえてきた。

（【お困りのようですね。助太刀しますよ、雪人様。】）

（！！？念波！【フェリスかつ！？なら、あのじいさんの気を逸らしてくれないか？】）

（【承知しました。】）

念波を終えると、木の陰からフェリスが爺さんに向かって飛んで行った。

「む？お主、フェリスか？久しいの。」

「お久しぶりです。ですが今は、雪人様の助太刀をさせていただきますー！！」

「ふおつふお、産みの親に手を出すか。・・・面白い！全力でくることがよい！」

「はあああああー！！」

キンッ！キンキンッ！キンッ！キンキンキンッ！

フェリスと爺さんは、何合もの打ち合いを続ける。
その間、神雷は止まってしまっていた。

「爺さん！さすがに、片方へ集中するのは関心しないぜ？神雷が堕ちていても隙ありすぎだー！！」

「ぬっ！？しまった！！！」

「《創造》、束縛！捕まえろ！『エルキドゥ天の鎖』！！！」

雪人が、そう言うと

空からから、幾多の光り輝く黄金の鎖が伸びてき、爺さんの両手両足に絡まった。

「ぬうゝ……。まさか、神具まで創造してしまうとは……。迂闊じゃった。」

「この能力は、じいさんがくれたんだぞ？それも、制限なしで」

「まったく、迂闊じゃったわ……。これに、捕まっては力も巧く使えんしの。……に少し制限をかければ良かったか……。……後世じゃ、殺すがよい。」

エルキドゥ 天の鎖

かつてウルクを七年間飢饉に陥れた“天の牡牛”を捕縛した黄金の鎖。

ギルガメッシュがエア以上に信頼する、自らの友の名を冠する宝具。

使用者の意思に応じてホーミングし相手を拘束する。

能力は“神を律する”もの。

相手の神性が高い相手ほど制約・拘束力・硬度を増す特性を持つ、数少ない対神兵装。

ただし、神性の無い者にとっては頑丈な鎖に過ぎない。

「そうだな、そうさせてもらうとするさ。……そうだな、ギルガ

メツシユ繋がりで、最後はこれがいいだろう。《創造》、真実を識るものよ現れる！『乖離剣エア』！！」

乖離剣エア

無銘にして最強の剣。エアという名前はギルガメッシュがつけたもので、彼の持つ究極の切り札。

剣というより円柱状の刀身を持つ突撃槍のような形状。

ギルガメッシュは「真実を識るもの」と表現する。あらゆる「死の国」の原典であり、生命の記憶の原初。ギルガメッシュは「地獄を識るもの」と表現する。それは語り継がれる記憶には存在せず、遺伝子に刻まれているという。

古代メソポタミアで天地を切り裂いたと言われている。

「ほう……。お主、原初の剣まで創造するか……。」

「原初の剣？」

「左様……。後の刻じゃ、説明してしんぜよう。」

それは、初源の神によって創られ、初源の神と共に、世界を創造し……。そして、『世界を切り裂いた』剣。最高位の創造神である

ワシでさえ、創造不可能

故に、ワシらは原初の剣と

呼んでおる。」

「へえ。そんなやべえもんだっただな、これ……。」

「そうじゃ……。のう、雪人。創造不可能だった原初の剣まで創造したのじゃ、どうじゃ？世界を創造する気にはならんか？」

「世界を創造……？」

「そう、ワシの代わりに創造神となるのじゃ……。どうじゃ？やってみる気はないか？」

世界の創造・・・それは、雪人にとってあまりにも大きすぎることだった。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

「なに、すぐには言わん。ワシを殺してしまえば、嫌でも創造神となる資格は得ることができる。その後、創造神となるかは、お主次第で気分次第なのじゃよ。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・、わ・・・かった。まあ、のちのち考えることにするよ。」

「そうか。・・・大分、時間も過ぎてしもつたの。」

「そうだな・・・。じゃあな、爺さん。」

「ああ、今度こそさよならじゃ。」

雪人はエアを振り上げ、勢いよく切り下げた

そして、爺さんは光の粒となつて消えていった

作者「めんめんwwwwww」

3万PV&5000ユニーク達成!!企画 番外編(後書き)

番外編どうでしたでしょうか？

楽しんだけただけたのなら幸いです。

感想お待ちしております。

それでは、また次回お会いしましょう(^A^)/シ

真・第2話（前書き）

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です。

言い忘れていたことを今言わせていただきます

読者の皆様、本当にありがとうございました！！！！

3万PV&5000ユーザ達成できたのは、本当に皆様のおかげです。

これからも精進いたしますので、よろしくお願いします！！

それでは、本編どうぞ！！！！

真・第2話

どうも、森咲神夜です。

読んでいる方は分かっているかもしれないけど、俺から直接は挨拶したことなかったしな。

それにしてもまさかあの時間帯の空港に、はんny・・・じゃなかった、万里谷がいるとはな・・・。

あと少しで、O H A N A S H Iさせられそうな所をなんとか落ち着かせ

キーリの運転する車で万里谷を家に送った。

まあ、車の中でも終始怒った顔のままだったが・・・。

・・・俺、なんか悪いことしたか？ （鈍感です。）

万里谷の家に着くと、万里谷は車を降りた後、俺に顔を向け「明日の放課後詳しく話してもらいますからね！」と言って家のほうへ向かっていった。

その後、俺の家に着くと案の定、家の電気は着いていなかった。

俺の両親は、世界を回って仕事をしている。

まあ、仕事は固定しておらず、頼まれた物はなんでもしているらしい。

とりあえずは月に2度、口座に振込みをしてくれるので、生活には困っていないが・・・。

俺は、ポケットから家の鍵を取り出し、鍵を開けると自室に向かった。

自室に着くと誘われるようにベッドに横たわった。

キーリは近くのホテルを借りるらしい。

ベッドに横たわると、すぐに眠気が襲ってきたので、それにまかせて寝てしまった。

ああ・・・宿題してねえ・・・。

次の日、学校へ行くと

「森咲先輩、おはようございます。」「森咲さん、おはようございます。」

とか

「森咲先輩いゝ、なんで土曜と日曜いなかったんですかあゝ？試合きてほしかったのに。」

などと言われたから

「ああ、おはよう。土曜と日曜は用事があったんだ。」

と適当に流した。

教室に行くと、またまた

「森咲君、おはよう。」「森咲さん、おはようございます。」

と言われたから、ここでも

「ああ、おはよう。」

と適当に言っ、自分の席に着いた。

俺の席って、窓側の一番後ろというなんとも、ありがたいポジションなんだよねえ。

椅子に座ると、前の席にいる親友の護堂が話しかけてきた。

「おはよう、神夜。」

「おお、おはよう護堂。」

「なあ、なんで土曜と日曜いなかったんだ？遊びに行こうと思ってたのに……。」

「わりいわりい。ちょっと、海外にでも行ってたから。」

「あれか、親の手伝いとかか？」

「まあそんなとこだ。」

「ふうくん、そうだったのか。」

俺が、カンピオーネであることは護堂には話してはいない。
まあ、一般人である護堂を巻き込むわけにもいかないしな。

そんなことを話していると、先生が入ってきたので、前を向いた。

【閑話休題】

授業もそこはかとなく終わり、放課後になった。

俺は教室を出た後、校門へ向かった。

万里谷の昨日の口ぶりだと、校門で待っていることだろう。

昇降口を出て、校門へ向かうと案の定、万里谷がいた。

まあ、周りに女子生徒が囲っていたが・・・。

友達と話でもしているのだろう。

コレはチャンスだ！

そう思った俺は、見つからないよう校門を抜けようとした・・・。

しかし、結果は

「なにを逃げようとしているんですか？し・ん・やさん」

「ひい！」

失敗に終わった・・・。

いやいやいやいやいやいやいや！！！！！！

なんか付けて、笑顔なんだけど、後ろから漏れる、怒りのオーラはヤバイですからね！！

「では、皆さんまた明日。さあ、神夜さん行きますよ。」

さっきまで話していた女子生徒たちに挨拶をした後、万里谷は、俺の腕を掴むと引っ張っていった。

俺は、あまりの怖さになんにも言えなかった。

後ろの校門のほうからは

「祐里さん・・・こわかったね・・・。」

「うん。」

「てか、森咲先輩を待ってたなんて、付き合ってるのかな？」

「たぶん、そうでしょ。美少女美少年のお似合いのカップルだし。」

「たしかにねえ。」

「・・・なんか残念だなあ。私、森咲先輩狙ってたのにい。」

「そんなこと言うなら、私もよ。でも相手が祐里さんじゃねえ。」

「そうだよねえ。」

「くそっ！俺の祐里さんがっ！」

「お、おちつけ。相手は森咲さんだ。手を出したら、周りがだまつてないぜ？」

「・・・そうだな・・・。」

などの、会話があっていたが、俺たちの耳にはないってこなかった。
・。

真・第2話（後書き）

どうでしたでしょうか？

今回は、珍しく神夜視点ですw

いままで、三人称視点だったので気分転換にでもと思いやってみました。

けっこう難しいものなんですね・・・。

次回から、三人称に戻ります。

たまに、視点をいれていこうとも思います。

それでは、また次回お会いしましょうww

感想のほうお待ちしております。

お知らせ

どうも、その輪廻の先にある物は・・・です。

この作品は、はまことに勝手ながら打ち切りとさせていただきました。

打ち切りの理由は、案がでてこなかった（スランプに陥った）からです。

・・・と話は変わりますが

紹介文も書いていますが現在、新しい作品を書こうと思っています。

そこで、主人公の人柄、性格などを皆様に聞いていきたいなと思っています。

ようは皆様が、こういう主人公の物語がみたい！というやつをかき集めて、そこから案を出していこうかなと思っています。

とりあえず、テンプレ作ります

【オリジナルor二次作】

【主人公の人柄】

【主人公の性格】

【好き嫌い】

【なぜ、こんな主人公がいいのか】

うーん、こんなもんですかね??

まあ、自分が思いつくものはこれくらいなんで、なんかつけてもらってもかまいません
とりあえず、主人公の設定とかが迷っているので案を出してもらえ
さえすれば・・・w

まことに勝手ながら、よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0859n/>

カンピオーネ！～智恵ある剣使いの魔王～

2011年1月8日20時10分発行